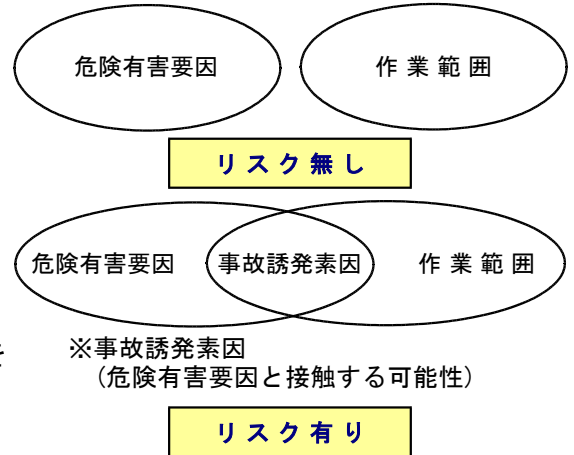


リスクアセスメントによる安全管理の向上を！

リスクアセスメントは、災害防止対策のための予防手段であり、従来の災害後の事後対策とは異なり、リスクを網羅的に抽出し、優先度を付けて対策を実施することで、安全管理の質の向上を目指すものである。

リスクの概念図を右に示します…



リスクアセスメントの手順

1. 現場における危険有害要因を把握する。
2. 危険有害性の程度を明らかにする。
3. 危険有害要因をリスクレベルに基づき低減・除去事項を決定する。
4. 優先度に対応したリスク低減策を実施する。

リスクを予測・予防策を講じる

現状を把握

- * 現場の地形を把握。
- * 周辺の社会・自然環境を把握。
- * 過去の工事事故事例を把握。
- * 事故要因を把握。

事例を把握し各計画策定に反映

- * 施工計画手順の作成。
- * 計画工程の作成。
- * 施工手順・工程に応じた発生。
- * 可能事故の選定。
- * 予防策の提示。

事例を活用、リスクを予測現場に沿った予防策の立案

- * 事故事例を踏まえた発生しうる事故のリスクを把握。
- * 優先順位を付けて具体の安全対策を提示。
- * 施工計画に反映。
- * 危険予知活動に活用。
(現地KY活動)

リスクアセスメントの検討にあたって

①リスクの芽を見つけること

1. リスクを見つけ出すこと
 - i 安全点検。
 - ii 安全巡視。
 - iii 現場の安全活動。
 - iv ヒヤリ・ハット・気がかり提案。
 - v 自然界の現象(地震・台風・豪雨等)。

2. リスクの芽が見つからない時
 - i 見つける能力が不足。
 - ii 見つけ方が断片的又は体系的になっていない。

(対策)

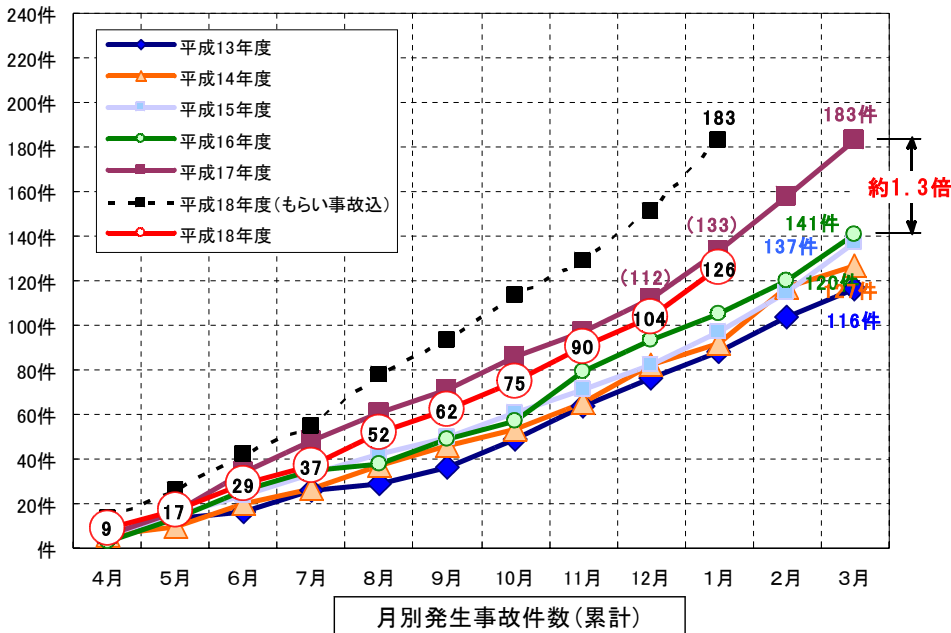
- i 教育・訓練について考えてみる。
- ii 能力向上としてリスクを危険と思う感受性や、日頃から危険予知機能を身につける。

②リスクを摘み取ること

リスクの芽を見つけた後、摘み取るには、どのようなことが必要か検討し、この努力がリスクアセスメントの手法となる。

平成18年度 直轄請負工事等事故の発生状況

過去最多であった平成17年度の183件に追従!



- * 月別発生事故件数(累計)で見ると、1月末現在、事故発生件数は126件(速報値)で、もらい事故を併せると183件です。
- * 過去最多であった平成17年度の事故発生件数(183件)は、平成16年度と比較して、約1.3倍発生している。
- * 平成18年度は、過去最多の平成17年度に追従して、事故が発生している。

建設機械等による事故の占める割合が多い!

年度	墜落	転倒・滑落	飛来・落下物	建設機械等							自動車等	自転車	その他 ^{※3}	合計		
				クレーン	バックホウ	削孔機	草刈機	切削機	自動車等 ^{※1}	その他 ^{※2}					小計	
4月			1		1					3	1	5		1	2	9
5月			1		2		1			2	1	6			1	8
6月				1	3		1			5		10	1		1	12
7月			1		1	1	1			3		6			1	8
8月	1		2		4		1			6		11			1	15
9月	1						3			3	1	7	1		1	10
10月					5		3			3	1	12			1	13
11月			1	1	3	1				4	1	10	1		3	15
12月			1	1	1	1			1	6	1	10		1	1	14
1月	1				2					7	2	11	4	1	5	22
2月																
3月																
計	3	1	7		3	22	2	10	1	42	8	88	7	3	17	126

注) 形態別発生件数においては、工事側に過失は無く、第三者が起因して工事関係者が被害を受けた“もらい事故”は含まない。また、1月の発生件数(22件)は、速報値(暫定値)である。

形態別発生件数

- ※1: 自動車等は、ダンプトラック・連絡車等を示す。
- ※2: その他は、カッター・ノコ等を示す。
- ※3: その他は、火災・天災等を示す。

- * 建設機械等に関する事故(88件)が全体の約7割を占めています。
- * 建設機械等の内訳では、自動車等(※1)に関する事故(42件)が最も多く、次にバックホウに関する事故(22件)が発生しています。
- * 自動車等(※1)の内訳では、**車両管理に関する事故(21件)、工事関係車両に関する事故(21件)**が発生している。
- * **バックホウに関する事故(22件)は、平成17年度の同月(1月末)16件を6件上回っています。**

- ◆ 工期終了が迫る現場も多く、例年、年度末には事故が多発する傾向にありますので、各請負業者へ安全管理をより一層強化・徹底し、全員が気を引き締めて作業にあたるよう注意・指導を強下さい。
- ◆ 現在無事故の工事等においても、最後まで気を緩めず災害ゼロを目指して下さい。